

発行所〓社会通信社 発行人〓滝野 忠

ホームページ <http://shakaitsuushin.cool.coocan.jp/> e-mail: shakaitsuushin@nifty.com

東京都渋谷区本町六丁目二八―二九〇四 電話・FAX(03)3299―5367

郵便振替 〓 〇〇一〇〇―九一五八四三一 労金〓中央労金本店 No.1154163

〈もくじ〉

■巻頭言■

こんな五輪にだれがした！
「メダルラッシュ」でも忘れてはならない！

国労上野反合研：2

コロナ感染が急拡大（第五波）

原 野 人：4

―わが首脳部の頹廢を悲しむ―

斎藤君はマルクスをどう歪めているか（一）

滝 野 忠：6

連帯ユニオン関生支部反弾圧闘争

稲 村 守：9

―第1回彦根行動に市民の応援！―

◇信州松本通信◇

松本市音楽文化ホール運営に携わって

中 澤 秀 行：10

―経済学はロビンソン物語を愛好する（二）―

読者からのおたより

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15

刊 旬 社 会 通 信

NO.1343

二〇二一年九月一日号

二〇二一年九月一日発行
(毎月一日・一五日二回発行)

こんな五輪にだれがした?!

「メダルラッシュ」でも、忘れてはならない!

コロナ感染が急拡大（第五波）し、ワクチン接種が滞るなか、「再延期・中止」の声を無視して、東京五輪の開催が強行された（7月23日「無観客」で開会式）。IOCバツハ会長も大会組織委員会幹部も、「日本選手が活躍すれば、国民感情も和らぎ空気が変わる」と言ったとされるが、私たちは、安倍・菅政権の国民の生命を軽んじる姿勢、ウソとごまかしを決して忘れはしない。

この間の報道で明らかになった東京五輪の問題を忘れないよう記し、この秋には必ず行われる総選挙で、自民党・公明党の政権を覆し、この国に民主主義を取り戻す端緒にしていきたい。

過去最多の感染者でも、「五輪は中止しない」と菅首相

まず、いかに五輪を開催するような状況ではなかったかについて記そう。五輪開催直前の数字になるが、東京都で7月22日、新型コロナウイルスの1日あたり新規感染者が1979人（一週間前の15日は1308人）判明し、入院患者数は2544人（1ヶ月前は1285人）に達した。自宅療養者は3657人（前週1841人）と急増。医療提供体制の逼迫が日に日に迫りつつあった。ワクチン接種の状況は、7月22日時点で、1回目が30・71%、2回目が19・48%にとどまる（内閣官房の資料）。そうした中で、夏の東京五輪・パラリンピック開催への国民の気持ちは、東京で賛成30%、反対58%（7月17・18日朝日新聞社世論調査）だった。

ところが五輪の第5日、衝撃的な数字が発表された。東京都は7月27日、新たな感染者を過去最多の2848人確認したと発表。入院患者数は7月27日時点で2864人、自宅療養者数も6277人に急増。4回目の緊急事態宣言から2週間。今回は減るどころか、爆発的な増え方が続く。菅義偉首相は7月27日、東京五輪中止の選択を問われ、「人流も減っているのです。そこはありません」と明言した（7月28日「朝日」）。

「復興五輪」の掛け声はどこへ消えた?

2013年9月、国際オリンピック委員会（IOC）総会で2020年大会の東京開催が決定。安倍前首相は総会で、原発事故の影響を「アンダーコントロール（管理下にある）」と説明。2015年11月、政府は、大会の基本方針を復興五輪とすることを閣議決定した。

ところが、東日本大震災から10年を数える今日、避難生活を送る人は今なお4万人以上。福島県内7市町村に残る帰還困難区域は、一部を除き解除の見通しが立たないまま。被災地では、人口減少が再加速する沿岸部と、人・モノ・カネが集中し続ける仙台圏との不均衡が進んでいる（3月11日「朝日」）。

東京電力福島第一原発事故後、敷地内にたまり続ける一方の放射能汚染水について、国と東電は10年間、処分方針をあいまいにし、先延ばしし続けてきたが、菅政権は4月13日、海洋放出する方針を決めた。福島県漁業協同組合連合会は「海洋放出に反対」。中国・韓国も同日、「深刻な懸念」を表明し、「絶対に許せない措置」と批判（4月14日「朝日」）。

「安心、安全な大会」の内実と、国内での感染爆発

2020年3月、五輪開催の延期決定。安倍前首相は「コロナとの闘いに打ち勝った証として、完全な形で開催」、菅官房長官（当時）は「安心安全の大会に」。それから1年。安倍政権を継承する菅首相の「根拠なき楽観論の行き着いた果てが、緊急事態宣言下での無観客開催」（7月23日「朝日」社説）となった。しかし「安心安全の大会」の内実は、行動ルール（ブレイブック）の相次ぐ違反、選手用PCR検査キットの不足、濃厚接触者であっても競技に参加できる「五輪特例」であり、大会組織委員会が発表した、選手や大会関係者の陽性者累計は106人（7月23日現在）に上る。そこに先に紹介した、会場外での感染爆発が加わり、医療崩壊の不安が私たちにのしかかる。

「差別の禁止（五輪憲章）」「多様性と調和」（東京大会の理念）と、人権意識の低さ

2021年2月、大会組織委員会森喜朗会長が女性蔑視の発言で会長を辞任。同3月、開閉会式の統括責任者佐々木宏氏が女性タレントの容姿を侮辱する言動で辞任。7月19日、開会式楽曲担当小山田圭吾氏、過去の同級生・障害者いじめの問題で辞任。7月22日、開閉会式ディレクター小林賢太郎氏、過去のコンントでナチスのユダヤ人虐殺を揶揄（やゆ）していたとして組織委が解任：：と、開会式前日まで続いたドタバタ劇。「今の日本社会全体の人権意識の低さを露呈した」（高橋哲哉東大名誉教授、7月23日「朝日」）。

また、この問題の影で気付かなかった方も多いかもしれないが、7月22日、ユネスコ（国連教育科学文化機関）の世界遺産委員会は、長崎県の端島炭坑（軍艦島）などからなる世界文化遺産「明治日本の産業革命遺産」について、朝鮮半島などから連行され厳しい環境下で労働を強いられた人々についての日本の説明が不十分だとして、「強い遺憾を示す」3度目の決議を全会一致で採択した。日本政府が対応の先送りを重ねていると判断された。これも、日本政府の歴史認識が「世界的な常識からいかにずれているか」（外村 大東大教授）を示している（7月23・24日「朝日」）。

五輪で誰が儲かるのか？ 誰が犠牲になるのか？

仏紙ルモンドは「日本人が望まない五輪」とのタイトルで「日本は国際オリンピック委員会（IOC）の囚人になっている」と伝えた。日本は不可抗力を理由に五輪の契約を破棄できず、IOCだけが行使できると言う。IOCの収入の約7割を占めるのが米国NBCなどからの巨額のテレビ放映権料。大会を中止すれば、放映権料は見込めない。NBCは、ジェフ・シエル最高経営責任者（CEO）が6月に「我が社史上最高収益の五輪になる可能性がある」と発言（5月11・20日、7月24日「朝日」）。菅首相は7月23日に公表されたNBCのインタビューで、「コロナ禍を克服し、大会を開催することは、真の価値がある」と語った。国民の生命を犠牲にしても、日本で「コロナ禍を克服した」（？）として、来冬の北京五輪より前に、開催を強行することに意義がある、と言うことか？

連日、日本選手のコメダラッシュが報道される（マジでヤバイスー）が、五輪を通じて独占資本（スポンサー企業）と菅政権の、商業主義・国威発揚主義に、私たちはごまかされてはならない。（国労上野反合研事務局討議資料No.220、21・7・29）

わが首脳部の頽廃を悲しむ

わが首脳部は、先の党大会において、「第四号議案Ⅱ当面の重点政策案」として、新型コロナウイルスをめぐる政策という当面する最も重要な政策を掲げることを怠ったうえに、党内で異論の噴出した「一人ひとりとは給付を受ける権利において平等であること」を残したまま強引に採択に持ち込んだ。

これは限りなくB I（ベーシックインカム）に近い規定であり、事実上B Iを肯定し、採用するための内容である。

現に、わが首脳部のK副委員長やI副書記長は『週刊新社会』において、かつてしきりにB Iを宣伝しておきながら、この採用はとりやめた、という記事は載せていない。それどころか党本部が発行する『コンパス』ではB Iを大いに宣伝してやまない。党本部とどういう関係を持つかは知らないが首脳部が重なる「社会主義協会」とやらの『（非）科学的社會主義』でもB Iをしきりに説いてやまない。

これを財政的に裏付ける当面の重点政策として、「法人税の租税特別措置や政策減税を見直し、法人税率を45%までの超過累進税率と」することを掲げる。

法人税率に関しては、かねてからこう指摘しておいた。

法人税率は容易に引き上げられるか？

「普遍主義的給付のためには資本家から高率の税金をとればよい」などといっても、資本が得るべき剰余価値（搾取すべき剰余労働）をゼロにする資本主義は成立たない。バイデン氏が法人税率を引き上げ、多国籍企業への増税をはかるようであるが、必要になっている諸政策を実現するためには、下げ過ぎていた税率を、日本並みに戻す程度に過ぎない。激しい国際競争のために引き下げてきた法人税率だけに、日本では独占資本が容易に引き上げを許すとは考え難い。（旬刊『社会通信』5月15日号）、「B Iは、所得税の累進性強化と消費税廃止・減税とのセットで」などといっても、当面の政権において、国際競争のいよいよ激化する今日、法人所得税であれ個人所得税であれ、資本家階級が累進税率の引き上げを許容することはあり得ないし、消費税廃止もあり得ない。（『社会通信』2月15日号）

副書記長のI君などは、「そんな夢のないことを！」などと非難するが。

法人税率最低15%でG20合意

イタリアのベネチアで開かれていた20カ国・地域（G20）財務相・中央銀行総裁会議は7月10日、法人税率の引き下げ競争に歯止めをかけるため、国際的に15%以上の最低税率を設けることで合意した。イエレン米財務長官は記者会見で、国際課税の具体策を練っている経済協力開発機構（OECD）の事務レベル会合でも、加盟百三十九カ国のうち百三十二カ国が同意したことを明らかにした。

各国は自国独占資本の競争力や成長力を高めるために、また海外からの投資を呼び込むために、競って法人減税を進めてきた。他方では国家の歳出が増える中で、この法人税引き下げ競争に歯止めをかけることは、諸国に共通の課題であった。かくして、最低15%の国際協定ができたのである。

安倍前首相が「世界で一番企業が活躍しやすい国」を掲げた日本は、法人税の実効

税率を34・62%（14年度）から29・74%（18年度）に引き下げてきた。最低15%という新たな国際的合意がなされたというのに、日本独占資本とその自民党政権が、これを「45%の超過累進税率」に引き上げるはずがない。

こんなことを「当面の重点政策」と掲げるのは、BIをよしとする頹廢した妄想家の首脳部でしかない。もつとも仮に45%どころか80%に引き上げたところで、BI用に年144兆円（一人毎月10万円）の財源など生まれようもないが。

U君と斎藤幸平准教授

月刊誌『科学的社会主義』という名の『空想的社会主義』など、とうの昔に取るのはやめていたのであるが、大きな湖のほとりに住む親友が、6月号をわざわざコピーして送ってくれた。それを読んで、改めて驚いた。U君の斎藤幸平評である。

両者ともプチブルジョアの理論家であることは共通している。

マルクスとエンゲルスに立ち返って

エンゲルスが指摘しているように「この二つの偉大な発見、すなわち唯物史観と、剰余価値による資本主義的生産の秘密の暴露とは、われわれがマルクスに負うところである。社会主義はこの発見によって、一つの科学となった。」（新潮社版マル・エン選集12、『反デュリング論Ⅱ』114頁）、岩波文庫版『空想より科学へ』旧版41頁）

向坂逸郎はこれについて次のように述べている。

「これを、エンゲルスの入門書的な軽い言葉と考えるはならない。社会の存続と発展は、人間の労働なくしては不可能である。……生産手段の私有制度のもとでは、所有者による人間労働の搾取が、商品生産という道をとって行われる。労働者階級と資本家階級の階級間の闘争を必然的なものとし、この資本主義の根本的矛盾の対立と闘争とが、資本主義社会を、より高い段階の社会主義社会に推し進める。この必然的な社会進歩の法則の発見が社会主義を科学にしたというのである。この必然的な歴史的法則を、労働者階級の自由な行為に転化する作業が、社会主義思想であり、社会主義運動である。」（『エンゲルスをめぐりて』262〜263頁）

肝腎な科学的理論の欠落

U君や斎藤君には今日の人類や地球を巡るあれこれの評論や言葉の遊びはあるが、エンゲルスが明解にし、向坂がそれに基づいて指摘する肝心の科学的な理論がない。

だから「資本主義的蓄積の一般的法則」の今日的説明も、収奪者（独占資本）を収奪して生産手段を労働者の共有物に転化することによる解決への道もない。

斎藤氏の根底にあるのは、協同組合による「参加型社会」であり、協同組合による「エコ社会主義化」をめざすものではない。氏によると協同組合を増やしていけば、資本主義は自然消滅するという。『社会通信』4月15日号稲村守論文、同5月1日号、7月15日号拙稿参照）

なお、様々な協同組合の意義と限界については、『社会通信』7月1日号山下俊幸論文、同8月1日号滝野忠論文を参照されたい。

いかんとも救いたいU君

U君が斎藤氏に最も反発しているのは、斎藤氏がかねてから「B Iには懷疑的である」ことにある。U君は『帝国』の著者の一人で「コモン」主唱者、B I推進派であるマイケル・ハートに賛同する。ハートは「資本主義のもとで生きている以上、貨幣をもっているに越したことはない」、「人々のための量的緩和」やB Iは「最終目的」ではない、とはいえ「みんなに貨幣を提供しない理由はない」としている。

斎藤氏がマルクスを語りながら、実はいかに非科学的であるかを明らかにしたが、U君にいたっては、相変わらずいかんともしがたい空想の世界を泳ぎ、そこで救いようもなくおぼれてしまっていることは明らかである。

16世紀のトマス・モアの「ユートピア」のB Iには歴史的進歩性があつたが、21世紀のU君のB Iには、一片の進歩性もなく、幼稚な反動でしかない。

Ⅰ 副書記長にさらに驚く

「政策委員会ニュース」7月1日号には副書記長のI君による、「人新生の『資本論』の「読後感」(書評)が掲載されている。

ここではマルクスによって科学となった社会主義の理論からの批判はみじんもない。U君にならって、ほとんど斎藤氏を肯定的に紹介している。しかもU君を引き合いに出しながら、斎藤氏がB Iに否定的であること、U君がそれを批判していることには少しも触れようとしない。かねてからK副委員長やU君とともに、I君がB Iに賛同し推進してきたことへの反省はみじんも感じられない。

I君は、「週刊新社会」に「マルクス・エンゲルスを読もう」を連載解説しながら、B Iはマルクスやエンゲルスのどこから出てくるのか、いつこうに解説がない。

首脳部の頹廃は、全国各地に混迷と停滞と機関紙縮減をもたらす

北海道本部のK書記長は、4年前に『中期政策補強案』が提案されて以来中央本部首脳を何度も招いて学習・討論をしてきたが、いまだに理解されていないと嘆きながらも上意下達である。上の方針に反対することは党規約上の党員の権利である。全国大会で代議員が自由に意見を表すことは当然の権利である。全国大会の代議員に選出されたS執行委員が道本部の意に反して「第4・5号議案」に棄権し、修正案に賛成したことで辞職勧告を受けた。ならば全国大会は都道府県の委員長(か書記長)だけで開くべきか。首脳部の頹廃によって、北海道では労苦を共にしてきた多くの仲間が離党し、機関紙が激減しようとしている。

(原 野人)

斎藤君はマルクスをどう歪めているか (一)

マルクスからレーニンへ

国労上野支部反合研は科学的社会主義の古典、灰原茂雄さん(三池労組書記長)や向坂逸郎先生(九州大学教授、社会主義協会代表)の古典といつていい書物を学び続け、かれこれ十五年になります。学び学んで、次に学んでみようとなつたのがレーニンの『罰金とはなにか?』『新工場法』(全集第2巻)です。レーニンが生まれたのは1870年、前者は一八九五年、後者は一八九七年に書かれています。

本誌の読者にも「いまなぜレーニンなのか、しかも一九世紀の」と考える人は少なく

ありますまい。ロシアは一八六一年、上からの不十分、不完全なブルジョア革命（農奴解放令）後、ヨーロッパでいちばん遅れて産業革命の時代に入ります。官営工場中心にストライキが激発します。日本でもそうでした。一八六八年の不完全なブルジョア革命（明治維新）後、日清、日露の二つの戦争は資本家に「春」をもたらしました。そんななか、渋沢栄一が明治の資本主義の旗頭として登場したのです。『通信』No. 1338（2021年6月15日）、No. 1339（同年7月1日号）「渋沢栄一にみる、『資本家の哲学』をぜひみて。この原稿じつによくできています。

レーニンのすごさは一八九五年のエンゲルス追悼（全集第二巻2の巻頭）にもあります。マルクス・エンゲルスが歴史発展の導きの糸と強調した史的唯物論を情勢―客観的かつ主体的な―に応用し世界ではじめて社会主義革命を実現、発展、成長させたのがレーニンです。

レーニンは始めから終わりまで階級的に、ということとはマルクス主義の原則を、理論に運動に適応しています。ですから、唯物史観とは何かを考えるのにレーニンほどふさわしい材料はないのです。

唯物論的歴史観（唯物史観）

レーニンのあと、いまは『唯物史観』（川口武彦著）です。チューター、報告者そして勉強会参加者は学習意欲に燃えています。歴史の背景、関連資料をくわしく調べるといったようにです。この数年、マルクスの思想を歪める「マルクス本」が乱売されています。

本屋で政治、経済、社会関係の書籍をぐらんなさい。「マルクス」と冠をつければ、どんな低劣な本でも売れると出版社は競い合っているかのようです。典型が斎藤幸平（大阪市立大准教授）の『人新世の「資本論」』です。

ぼくらの周辺にもメディアにあおられてでしょうが、相当に洗脳され始めた仲間も出始めたようで、①自分の固定観念、運動へのかかわりに刺激を受けた、②久々にすごい本に出会えた、などと読後感をつづっています。どこに刺激を受けたのかはどうもはっきりしません。とりわけびつくりさせられるのは科学的社会主義の古典をだれよりもよく学んでいると思われる組織と集団の仲間たちが、斎藤君の思考は科学的社会主義とまったく無縁なこと、マルクスを根本的に歪め、改ざんされていることに気付いていない、気付こうとしていないことです。

斎藤君をどのように持ち上げているか、少しばかり、例をあげてみましょう。

▽最近話題になっている『人新世』、皆様はどのようにお考えでしょうか？このことが「一人ひとりでできることをやる」「けっしてあきらめない」、僕らが学んだこととどのように関わるものなのでしょうか？大変気になるテーマ、どのようにお考えでしょうか？

▽最近印象に残った本です。待合室にあります。『武器としての「資本論」』（白井聡・東洋経済）

『人新世の「資本論」』（斎藤幸平・集英社新社）

▽資本論を格差対策や環境対策の道具として使おうという新鮮な切り口、若いイデオログの出現がうれしく、オールドマルクスボーイ脱帽です。

▽この本で著者は資本主義システムを明確に否定している。『資本主義のもとで脱成長を実現しようとする生ぬるい話ではない』、それが生産力向上を前提とした旧来型の社会主義ではな

いことは明確です。

▽気象崩壊により何がおきるかの疑問にみごとに答えている。著者は晩期マルクスの思想の中にこの応えを発見する。平等で持続可能な脱成長型経済、『脱成長コミュニズム』という社会主義である。

例をあげればきりがありません。とりあえずこのくらいにしておきましょう。

どう読む

向坂先生がなくなれば三十年になりました。向坂夫人は『共産党宣言』は『坊ちやん』について、岩波文庫で売られています。しかし、社会主義の思想はなかなかひろがりをもちません。いったいどんな人がどのように読んでいらっしゃるのかしら」と皮肉っぽく話されていたことを思い出しました。

国労上野反合研の学習会は「コロナ」下でもほぼ一回の休みもなく、ズームという方法で継続してきました。

ぼくの興味と関心は、学習会仲間がいつ、どのように斎藤君の本を話題にするかでした。その時が来ました。新しく参加されたAさん、本を手に「読み初めています」との感想です。もう一人、Bさんは意を決したかのようにカバンから引っぱり出しました。みんな関心もつてる。買ってる、そして読み始めてる、これにはびっくりです。メディアの影響はものすごいですね。

斎藤君の「マルクス」は—あとくわしく述べますが、斎藤君流に「解釈」された「マルクス論」です。プチブルの学者諸君やマルクス主義を放り投げた「社会主義者」「元社会主義者」はマルクスを正しく解釈、理解することなしに、手前勝手に妄想し、マルクスを歪めてきた歴史に際限がありません。昔からそうです。「初期」のマルクスがブームになったことがあります。今は「後期」のマルクスが斎藤の「商品」です。初期も後期も誤りです。初期から後期は一貫しているのです。マルクスがどのようにヘーゲル弁証法を足でたつように、作りかえたかを示すのが向坂の『マルクス伝』です。

斎藤君は社会主義の概念をねじ曲げてしまいました。そのねじ曲げられた考えに「社会主義者」「元社会主義者」が太陽は地球を、地球が月を引き付けるように、とりこまれてしまっているのです。悲しい、寂しい、バカげてる。向坂夫人のようにぼくですらからかいたくなるうというものです。

「斎藤さんの誤り」考えましよう

マルクスやエンゲルスの社会主義の概念は彼らの著作のすべてに掲げられています。古典が難しいというのなら、ごくごく初期の（1846年代の）エンゲルスのマルクスへの手紙から考えて見ます。当時、マルクスとエンゲルスは私的所有、小商品生産、貨幣を残して「共同社会」ができると夢想したブルードンと激しい論戦をおこないました。マルクスの主著の一つである『哲学の貧困』がその証明です。エンゲルスは「社会主義とはなにか」を空想的共産主義者との論争でこう定義したとマルクスに手紙しています（1846年10月23日）

「私は共産主義者の意図を次のように定義したのだ。①ブルジョアの利益に対立するプロレタリアの利益を実現すること。②そのためには、私有財産を廃止して財産共有制をこれに代えること。③このような意図を実行するための手段としては、暴力的、

民主主義的革命以外のものは認めないこと」。

はつきりしていますね。誤解するところはありませんね。エンゲルスはマルクス以上の実務家です。誤読するスキはいっさいありません。

上野反合研ははじめに述べたように十数年さまざまな古典を学んできました。チューターのMさんは、学習会の中で斎藤氏の『人新世の資本論』の一部を以下（*印3つ）のように要約（「内は直接引用」）して紹介し、「斎藤さんの誤りはどこにあるか考えてみましょう」と呼びかけています。

*「共産党宣言」当時のマルクスは、資本主義が早晩、経済恐慌をきっかけとした社会主義革命によって乗り越えられるという楽観論を抱いていた。資本主義の発展は生産力の上昇と過剰生産恐慌によって革命を準備してくれる。「だから社会主義を打ち立てるために、資本主義のもとで生産力をどんどん発展させる必要があると考えていた節がある。いわゆる『生産力至上主義』である」（150頁）。

*資本主義による生産力の上昇が、将来、皆が豊かで自由な生活を送るための条件を準備してくれるというわけである。こうした考え方を「進歩史観」と呼ぼう。（153頁）

*この進歩史観＝「史的唯物論」には問題がある。生産力至上主義の立場では、生産が環境にもたらす破壊的作用を完全に無視し、自然に対する支配を完成させることで人類の解放を目指す。（154頁）

さてこの、「共産党宣言」当時のマルクスは、「生産力至上主義」だ、「史的唯物論」は誤りだとする斎藤幸平氏の誤りはどこにあるのか。今日の学習した範囲（『唯物史観』第三章）で十分答えられます。考えてみましょう。（滝野 忠・つづく）

連帯ユニオン関生支部反弾圧闘争

―第1回彦根行動に市民の応援！―

天も味方した。8月3日、未明から京都や滋賀県南部大津市は高速道路で前も見えないほどの豪雨であった。「羽田賢一 滋賀県警元組対課長の呪いの雨か」と思ったが、そんな珍奇な雨ごいは天が吹き飛ばしてくれた。名神高速を湖東に行くほどに雨は吹っ切れ、むしろカンカン照りとなり、チラシ配布、抗議行動にはうってつけの天候となった。

JR彦根駅、左に彦根城を臨み、駅前には井伊直政の銅像もあるが、すでに名古屋・岐阜や大阪、京都、地元滋賀各地からたくさん仲間が参集されていた。平日、遠隔地でありながら手弁当で集まった労働者・市民は約30人。反弾圧京滋実行委員会の服部恭子共同代表のきちんと準備された地図、班編成、チラシ（雨除けのビニール袋入り）が手渡され、手早く要請が的確になされ、いつせいに彦根の町にチラシ配布部隊が配置につく。正味30〜40分で約2000枚のチラシは彦根市内中心部にほぼ投函された。

また駅前ではハンドマイクでの訴えと乗降客へのチラシ配布がなされ、ほとんどの通行人が受け取ってくれる。この義理堅さは、日ごろ大津や京阪神では味わえない。

午前11時半、彦根駅からびわ湖側に出て少々北上、徒歩10分の彦根警察署前にチラシ配布部隊は全員集合。ただちに警察署から5人ほどの刑事・警官が出てきて、「いったい何しはるんですか？」というので、「宣伝行動。憲法にある表現の自由だ」と

答えると、「通行の妨害にならないように」とか言うので、「それは当然だ」というと、黙って引つ込んでいった。

「女を出せ！ それってセクハラー！」彦根警察署・羽田賢一署長は女性の人権を、労働者の権利を認めろ」などのミニプラカードや横断幕を掲げて、反弾圧東海の会や大阪、京都や地元滋賀各地の参加者から目の前にある彦根署で耳を澄ましているであろう羽田署長に、怒りの発言が続いた。

そうしたら、意外にもミニプラカードを車の運転手に示すと、私たちへの応援のクラクションがどんどん鳴る。4月の羽田署長の就任時からの「東京の警察庁出向中の同僚女性警視へのセクハラ発言で抑うつ状態に陥らさせ、公務災害認定を受け、その女性警視から東京地裁に損賠請求訴訟されている被告を彦根署長に任命するのですか？」と県政記者クラブで質問を受けた近畿初の女性県警本部長が「適正な人事です」と答弁したことがマスコミで流れている。その滋賀帰任時に滋賀県警刑事部組織犯罪対策課長となり、関生弾圧を、戦後労組弾圧としては最初で最大の刑事弾圧をした事件を手掛けた「手柄」で羽田課長は今春彦根署長となり、当時の県警本部長は警察庁の組対課長に就任し、ともに「栄転」をしている。

羽田課長の下での2018年から2019年の滋賀県内の関生組合員弾圧は、労組員の妻を男性刑事が目の前で本人の下着を調べて心の病に陥らせたり、完全黙秘ではいつまでも出てこれないから「関生と手を切れ」と「あんたからも言え」と、警察が不当労働行為したり、警察署への抗議宣伝車をがさ入れしたり、女性差別・人権弾圧の枚挙にいとまがない。

この羽田課長指示のタイヨウ生コン事件：武委員長の1000万円恐喝容疑が7月13日、大阪地裁で無罪を勝ち取った。

この日、東海の会から参加された岐阜のAさんは、警察法第2条第2項、すなわち、「2 警察の活動は、厳格に前項の責務の範囲に限られるべきものであつて、その責務の遂行に当つては、不偏不党且つ公平中正を旨とし、いやくも日本国憲法の保障する個人の権利及び自由の干渉にわたる等その権限を濫用することがあつてはならない。」に注目をして、このような彦根署長・滋賀県警への抗議を強化すべきと訴えられている。

「不埒不屈」のTシャツを着て家路を自転車ですぐ高校生、署内の七夕の短冊に寄せ書きした幼稚園・保育園児の純粋な心を踏にじるこのような県警本部の人事配置、警察署長に彦根市民の怒りが、反弾圧闘争への連帯として寄せられた酷暑の8・3彦根行動であった。

(かななま勝手連・しが 稲村守)

◇信州松本 通信◇

松本市音楽文化ホールの運営に携わって

経済学はロビンソン物語を愛好する (二)

(五) 一八六八年七月十一日付クーゲルマンへの手紙の検証

さて、問題としている一八六八年七月十一日付の「クーゲルマンへの手紙」ですが、ここでは東大教授であった塚本健先生の訳されたもので紹介し、検証をしたいと思い

ます。

「価値概念を論証することが必要だというおしゃべりは、ただ、問題となっている事柄についても科学の方法についても完全に無知であることにもとづいています。一年といわず二、三週間でさえ労働を止めたら、どんな国民でも死んでしまうということとは、子供でもみんな知っています。同様に、欲望の量がちがうにつれて生産物の量がちがってくるが、それはその生産物の量はそれぞれ一定量の社会的総労働を必要とするということも、どんな子供でも知っています。社会的労働を一定の比率で配分することの必要は、決して社会的生産の特定の形態によつては廃棄されず、ただその現象様式を変えうるだけだということとは自明のことです。自然法則は、一般に廃棄されるものではありません。歴史的に状態が異なるにしたがつて、変化しうるのは、ただ自然法則がおこなわれる形態だけです。そして、社会的労働のあいだの関連が個人的労働生産物の私的交換として実現される社会状態においては、こうした労働の比例的配分がおこなわれる形態が、まさにこれらの生産物の交換価値なのです。

価値法則がどのようにしておこなわれるかを展開すること、これこそが科学なのです。……。

俗流経済学者は、現実の日常の交換比率と価値の大きさは直接的に同一ではありませんということに少しも思いつきません。ブルジョア社会の妙味は、まさに先天的に生産の意識的な社会的統制が存在しないという点にあるのです。合理的で自然必然的なものは、ただ盲目的に作用する平均として自分を貫徹するにすぎません。そうすると、俗流学者は、内的関連がばくろされたのに対して、事実は現象の上では異なってみえるといふことに固執し、大発見をしたつもりでいるのです。じつさい彼らは、外見にしがみつき、それを究局のものと思い込んで、がんばっています。そんなことでは一体何のための科学でしょうか。」(新潮社『マルクス・エンゲルス選集』第4巻 185〜186頁、大月書店『マルクス・エンゲルス全集』第32巻 454〜455頁、国民文庫『クーゲルマンへの手紙』国民文庫 87〜89頁)、と。

では、マルクスの言わんとすることを、まとめてみましょう。

〔A〕クーゲルマンへの手紙(1)　～生産活動、労働がすべてのもと～

はじめに、「一年といわず二、三週間でさえ労働を止めたら、どんな国民でも死んでしまうということとは、子供でもみな知っています。」という箇所についてです。

①労働価値説　～労働がすべてのもと～

多くの人は、こうした当たり前で且つ重要なことについて、普段余りにも気にせず生活していると思います。マルクスは、アダム・スミスやリカードといった古典派経済学者の労働価値説に立つて、これを発展させました。

そこでマルクスの著作から、「人間労働」についてどのように述べているのか、おおよっぱになります。追跡してみたいと思います。マルクスの著作の全ては、「労働がすべてのもと」であるという前提に立脚して書かれていることを認識しなくてはなりません。

まず、1845年春に書かれた「フオイエルバッハにかんするテーゼ」の八番目には、「社会的生活は本質的に実践的である。理論を神秘主義に誘いこむすべての神秘は、

その合理的解決を人間の実践およびこの実践の把握のうちに見いだす。」（岩波文庫版『フオイエルバッハ論』89頁）とあります。これは何を言いたいのでしょうか。人間は日々生きるために、その社会生活は本質的に実践的であり、合理的な解決は人間の実践、すなわち、具体的には生きるために生産活動をするなかで、労働するなかで、合理的に解決してきた、ということです。こうした「人間労働がすべてのもと」だ、ということです。

歴史上、人類は産業的実践により、様々な問題を合理的に解決してきました。たとえば病氣一つをとっても、神社仏閣を建造して、祈祷なりによって病に立ち向かうだけでなく、薬草の活用や各種の手当を編み出し、より合理的に病に対処してきました。コロナ禍の現在、これを克服するために新たに神社仏閣や教会を建立し、国民がごぞつて祈祷するということはあり得ないでしょう。すべての人は、医学の進歩に期待しているし、また、するでしょう。

② 人間が歴史を作りうる大前提の確認 ― 衣食住に必要な物質的生産 ―

次に、1845年〜46年に書かれた『ドイツ・イデオロギー』（エンゲルスとの共著）には次のようにあります。

「無前提的であるドイツ人のもとでは、われわれはあらゆる人間的存在の、したがってまたあらゆる歴史の第一の前提を確認することからはじめなければならない。すなわち人間は、『歴史をつくり』うるためには、生きてゆくことができればならぬという前提である。ところで生きるのに必要なのはなによりもまず食うことと飲むこと、住むこと、着ること、そのほかなおいくつかのことである。したがって第一の歴史的行為はこれらの欲望をみたすための手段の産出、すなわち、物質的生活そのものの生産である。しかもこれは、ただ人間の生命をつなぐためにも、今日なお数千年まえとおなじく日々刻々とげられねばならない歴史的行為であり、あらゆる歴史の根本条件である。……」

したがってあらゆる歴史的理解にさいして第一の点は、この根本事実をその全意義とその全範囲にわたって観察し、それに当然の地位をみとめることである。周知のとおりこのことをドイツ人は決してしなかった。だからかれらはまだ歴史のための地上の土台をもったことがなく、したがってまたひとりの歴史家をもったことがない。

（岩波文庫版『ドイツ・イデオロギー』マルクス・エンゲルス著／古在由重訳 34P〜35P ☆現在、岩波文庫版は廣松渉新編輯版『ドイツ・イデオロギー』として出版されているが、古在訳に従います。田中正造・木下尚江等とともに足尾鋳毒事件にかかわった古在由直、その子息でもある古在由重氏には特別の想いがありますので……）

人間が存在し且つ人間が歴史を有しているのは、何よりも衣食住に必要な物を、物質的生活のための生産活動をし、それらを消費し続けなくてはなりません。すなわち「労働がすべてのもと」である、というのであります。

そして、こうした余りにも当たり前な事実を土台とした歴史家は、今まではいなかったということです。

③ マルクスシイズムの世界観と歴史の発展法則

最後に、1883年3月14日にマルクスは亡くなりましたが、ハイゲート墓地

で葬儀の日である1883年3月17日に、その墓前でのエンゲルスによる「カール・マルクス葬送の辞」に目を通してみますと、次のようにあります。

「ダーウインが、有機的な自然の発展法則を発見したように、マルクスは、人間の歴史の発展法則を発見した。その法則とは、観念がしげりすぎたため、いままで覆いかくされていた、簡単な事実である。すなわち、人間は、政治、科学、芸術、宗教等にたずさわるまえに、なによりもまず、食い、飲み、すまい、また着なければならぬ。したがって直接的な、物質的生活手段の生産が、それゆえ、ある国民、またある時代の、それぞれの経済的発展段階が土台となり、そして、その人々の国家制度も、法律思想も、芸術も、さらに宗教的観念さえ、この土台から発展したものである。だからこれらのものは、この土台から説明されなければならないもので―けっしてこれまでやっていたように、これを逆にしてはならない。」（新潮社版『マル・エン選集』第12巻249頁、国民文庫版『モールと将軍―マルクスⅡエンゲルスの回想―』（2）375頁）、と。

ここでは、『経済学批判』の「序文」にある、いわゆる唯物史観の公式、土台と上部構造の説明が、端的にされています。

衣食住のための物質的生活手段の生産が、その生産体制あるいは生産関係が土台となつて、国家制度、法律制度、そして思想や芸術や宗教的観念も、こうした土台の上に築かれるという訳です。もちろん、上部構造と下部構造との間には、作用と反作用があるのですが、ここでも物質的生活手段の生産、すなわち「労働がすべてのもと」という思想が貫徹されています。

〔B〕クーゲルマンへの手紙（2）　社会成立の条件としての社会的労働配分

〔A〕に続くセンテンスは次のようになっています。

「同様に、欲望の量がちがうにつれて生産物の量がちがってくるが、それはその生産物の量はそれぞれ一定量の社会的総労働を必要とするということも、どんな子供でも知っています。社会的労働を一定の比率で配分することの必要は、決して社会的生産の特定の形態によつては廃棄されず、ただその現象様式を変えうるだけだということとは自明のことです。自然法則は、一般に廃棄されうるものではありません。」と。

人間社会を維持するには、すなわち衣食住等の生活必需品を生産するには、その社会における社会的労働を一定の比率で配分しなくてはなりません。皆で衣服を作る仕事だけを、あるいは家だけを建築していただけでは、あるいは米だけを作っていただけでは、人間社会は成り立たず、必要量の衣食住等の生活必需品を生産するには、その社会的労働を一定の比率で配分しなくてはなりません。これは、どのような社会でも当てはまる自然法則だということです。

職場も一つの社会です。職場を機能させるには、職場全体の労働を一定の比率で上手に配分しなくてはなりません。その際、各自の労働能力も鑑みなくてはなりません。

民間企業で下請会社を担当して労務をしていた時に、「2・6・2」ということを教わりました。10人の労働者がいると、2人は仕事内容を伝えておけばそれ以上の指示がなくても創意工夫して仕事を卒なくこなすということです。優良労働者です。次の6人は言われたことは、なんとかこなす中位の労働者で、最後の2人は、指示されたことさえも十分に達成できない劣等なる労働者だということです。

実は、『資本論』にはこのことが記されています。岩波文庫版第二分冊の252頁の「注(八)」に目を通してみて下さい。ここでは「2・6・2」ではなく「1・3・1」として表記されていますが、同じことです。これを知った時、資本の側は、資本の立場で『資本論』から学んでいるのだと感ぜざるを得ませんでした。松本市役所勤務の38年間で、私に「2・6・2」について私に語った職場の先輩が一人だけいました。私が信頼できた上司の一人でした。

『ゴードン綱領批判』の「資本主義から生まれたばかりの共産主義」、すなわち「経済的にも道徳的にも精神的にも、それが生まれてきた母胎である旧い社会の母斑をまだ身につけている」社会、すなわち社会主義社会では、各自はその能力に応じて労働し、労働に応じて生活手段を受け取るのですが、「共産主義のより高度な段階」においては、「各自はその能力に応じて、各自はその必要に応じて」受け取るようになるのですが、ここでの「能力」を考えると、統計学的に出された「2・6・2」あるいは「1・3・1」は重要だと思われます。

一つの職場を考えても、職場を見渡し、職場での労働配分に気を配ることが大切です。

〔C〕クーゲルマンへの手紙(3)↳資本主義的生産体制における労働配分↳

次に、こうした「自然法則」が、資本主義的生産様式が支配する社会では、どのように作用するかが、次のように述べられます。

「歴史的に状態が異なるにしたがって変化しうるのは、ただ自然法則がおこなわれる形態だけです。そして、社会的労働のあいだの関連が個人的労働生産物の私的交換として実現される社会状態においては、こうした労働の比例的配分がおこなわれる形態が、まさにこれらの生産物の交換価値なのです。

価値法則がどのようにしておこなわれるかを展開すること、これこそが科学です。

……」

市民社会の経済体制、すなわち資本主義的生産様式は歴史的なもので、永遠の昔から続いていたものではなく、これから未来永劫に続くものではありません。実際に人類は、原始共産制社会、(奴隷制社会)、封建制社会、資本制社会を経験してきました。そして我々の生活する資本制社会、すなわち、資本主義的生産様式が支配する社会が、他の歴史的形態と根本的に異なるのは、独立した個人的な労働生産物が商品として生産され、市場において、私的に交換(売買)されることによってのみ、社会的労働生産物として実現されるということです。

「お互いに商品として相対するのは、独立的でお互いに分れている私的労働の生産物だけである」(『資本論』岩波文庫第一分冊80頁)、という訳です。

私有財産制度(生産手段の私的所有を認知する制度、生活手段はどんな社会であっても個人が消費します。)と社会的分業、こうした資本主義的生産様式を土台とした社会では、生産物は「商品」となります。ここでは、社会を維持するための社会的総労働の成立とその配分が、意識的計画的に行われ、労働協力が直接的に行われる社会とは異なります。

ですから前述のように、マルクスは「ブルジョア社会の妙味は、まさに先天的に生産の意識的な社会的統制が存在しないという点にあるのです。」と述べるのです。

労働協力が直接的に行われる社会について、マルクスは、「共同的な、すなわち直接的に社会的となっている労働」、あるいは「人々は、共同の生産手段をもって労働し、彼らの多くの個人的労働力を、意識して一つの社会的労働力として支出する」(『資本論』岩波文庫第一分冊140(141頁))のですが、資本主義的生産様式の支配的な社会では生産物の交換という「迂路」を経なくてはなりません。そして、交換されぬ生産物、市場で売られることが出来なかった生産物は、無用の長物と化します。

松本市が菅谷昭市長の下で課題として来た「食品ロス」の問題は、全国的に注目されました。しかし、こうした問題が根本的には資本主義的生産様式に起因しているところまで突き詰めることなく、食べ残す人の道徳心に訴え、物を大切にしない人間のモラルの問題として終始している限りでは、根本的解決には至らぬことは間違いありません。

資本主義はより多くの剰余価値の生産、儲けのための生産がですから、こうした「ロス」がどれだけ出ようと、それ以上の儲けがあることが、資本の生き残る絶対的条件であります。(2021年7月3日 中澤 秀行 つづく)

◇読者からのおたより◇

健康こそ 暑中お見舞い申しあげます。とはいえ いまだ梅雨真っ最中、いつ梅雨明けになるのか？ やはり異常天候です。農作物への影響が心配です。私は毎日伸びる草と格闘 りんごの仕上げ摘果、水田の水はけを良くすること等の作業の毎日です。コロナも深刻な状況です。今年も楽しみにしているお盆の時期の孫との再会も叶いそうにありません。とにかく健康でいることです。ご自愛ください。

追伸 6月19日、雨でしたが秋山郷へ。秋山郷の先祖は、1783年天明の大凶作で大秋山村が滅び墓石が並んでいます。暗くてよく見えませんが、秋山郷の名はこの大秋山村に由来しているとのことでした。世の中の陰の部分にはこうしたことがあるのでしょうか。現在は屋敷地区のみなさんが墓を守っているようです。(長野県飯綱町 山浦隆芳)

やれることを考え準備したい 「辺野古の現場から171」一斉送信です。先日、高野孟さん、三上智恵さん、山城博治さんの鼎談YouTubeを観ていてあらためて考えさせられた。三上さんの、オリンピックに関連して「開催反対だけど、始まったら選手に責任はないし応援しなくちゃ」という意見に対しての発言。「それって、戦争が始まるまでは反対するけど、始まったら勝つしかない、っていうのと同じじゃないですか」

スポーツクライミングを観ていて、沖縄大学在学当時(2011(2013))のことを思い出した。サークルは探検部に入っていたが、実態はフリークライミング同好会で、部室は全面人工壁になっていて、若い学友たちにしごかれながら運動不足を解消していた。

玉城デニー知事による「不承認」発表が、8月中頃以降といわれている。各自で・グループで・各地で、やれることを考え準備したい。(毛利孝雄)

出来ない! 『通信』1342号、ありがとうございました。「読者からのおたより」の兼子さんにはお会いしたことないの、何かと過分なお褒めをいただいて恐縮、会ってみたいになりました。いろいろと大変な状況、私めも超忙しい、浴衣の仕立て(頼まれ)、春の蒔菓子づくり(茶用)、只今俳句作りで徹夜。出来ない、遺骨土砂で一句と、無い知恵を今朝まで! 出来ない! 今週末提出、シニア大へ。

遺骨土砂 辺野古の海へ

霊涙(字余り)

(長野県佐久市 菅原須摩子)

初心 副議長に就任した5月13日以来、別世界に入ったように感じることもある。まだまだ知らない世界があるのだと。議会の景色、議場の景色もこれまでとかなり違って見える。

副議長という自分の新しい立場から課題に向き合っていきたい。市民が暮らしやすい仕組み、地域をいかに作っていくかということを最優先に考えていきたい。

議員18年目にしてもう一度、自分の初心を振り返る機会をもらい、時間を有効に使いながら、今自分が何をやらなければならないのか、その原点に立ち返り活動していきたい。

(2021年7月向暑の候 広島県福山市議 西本章)

思い付き発言 例年ですと全国で夏祭りの盛んな時期ですが、殆ど中止に追い込まれています。また盆の月に入り先祖への墓参りにも行けずいりではないでしょうか、世界の祭典、平和の祭典、復興の祭典と言われ、五輪だけは強行されています。コロナ感染者は蔓延状態に陥り、ワクチン接種は当初は7月中には100%終了することができると言っていた首相、しかし現在では11月までには完了できると言われるとデタラメな思い付きの発言ばかりです。それにしても感染しないような万全の態勢で過ごしてください。

(原発事故被害者相双の会 國分富夫)

新潟港からフェリー 北海道への恒例の旅 今年も新潟港からフェリーで恒例の北海道へ一人旅。7月26日早朝に小樽到着、札幌の松里さん宅で朝食をこちそうになり、木山さんとは40分ほど会い、名寄で大先輩に会って音威子府に。涼しい北海道ではなく、連日35℃を越す暑さ。しかも音威子府にはどこにもクーラーがない。

26日の夕方 600 おといねづぶがバーベキュー交流会を開いてくれた。かつて音威子府闘争団にいた石澤さん、高橋さん、千葉さんの3名も旭川市から合流した。

27日 29日まで 600 おといねづぶの小西・高橋・山内さんと4名で釣り、20日間も雨が降っていないとかで天塩川も水位が1mも下がりが、ぬるい温泉状態。

音威子府近くの支流の吐き出し口は水が冷たく、80cm近いイトウが20尾ほど背びれを出して涼んでいた。4名が丸1日かけてもイトウの当たりは全くなし。

連日36℃の中での釣りは、暑いのは暑い水蒸気が飽和状態の本州と違い、気温ほどの暑さを感じない。しかし、魚は敏感で冷たい水を好むイトウもニジマスも湧水で遡上が遅れているのか、食い気がないのか、これはという釣果なし。その後、30日に網走の鈴木さん宅でいつものメンバーで交流会、31日に長万部で佐々木さん宅に泊めてもらった。

私は北海道の仲間たちを訪ねるといつも、闘争団の皆さんは人生で最も生きいきと多感な青春を争議と生活に明け暮れ、その上で組合方針に沿ってきたにもかかわらず国労本部にも裏切られ、老後の生活の不安を抱えている(多分闘争団の仲間たちは仲間の連帯と一緒に闘ってくれた人たちの闘いのぬくもりなのだろうと思う)。この人たちの青春や人生を考えるといつも胸が痛くなる。

しかし、北海道の仲間はみんな元気、国鉄闘争の和解から10年、お互いの年齢を感じるが、厳しい生活の中でも頑張っていた。

8月1日に下北半島の大間に下りて1泊し、帰途についていた。大間は23℃で半袖だと寒いくらい。せっかく大間に着いたのだから、かの有名な大間のマグロでも大分の仲間に送ろうかと専門店をのぞくと冷凍で100g 5000円。大間のマグロなど我々の口に入らないものだと実感した。

3段落ちのマグロの胃袋の塩辛で勘弁してもらった。

大間へのフェリーの中で自転車旅の親子と隣り合わせになった。聞くところによれば「宗谷岬から自転車でテント泊まりしながら1週間で函館まで来た。東京から」と言っていた。私が新潟からと言うと子どもが「本当はお父さんも新潟生まれ」と言い、村上市の出身(実家は旧山北町・山形の旧温海町の県境まで15m)、「小学5年生で、父親と日本海側を走って村上の実家によって鹿児島までテント泊まりしながら自転車で行く」と平気な顔で応えてくれた。

私の泊まった漁師民宿とテントサイトが隣り合わせで再会し、おせっかいながら帰りに親子の村上の実家に寄って「1週間かお盆前には帰ってくる」ことを伝えて喜ばれ、新潟市に向かった。

こんな大胆な生き方をしている親子に初めて会った。世の中狭くて広いものだとつくづく感じた。今回も北海道の仲間に迷惑をかけながら、楽しくまわらせていただいた。来年こそ丁度良い天気にも恵まれ、イトウが釣れることを夢見ている。

(新潟 小林義昭)